

『一心千里』

永田隆一

走っていていけば、
見えてくる



第128回

「亮太さん、新型コロナ
ナウイルスとの戦いは、
長期戦になるとというのが
世間のマジョリティーで
すね」「そして、我々一
般の人たちは、だるまざ
ん状態だね。手も足も出
ない」。

「確かに、諦めに近い
感情が大多数ですが、良
いこともあると考えてい
ます。それは、本物と偽
物を見分ける時間を与え
てもらったということで
す。出社してパソコンを
開き、ルーティンワーク
会議をして、レポートを
書き、同僚と縄のれんを
くぐり、愚痴を話して、
痛みをシェアして、少し
心を軽くして帰宅。妻の
脈絡もない話に相槌を打
ち、書斎で少し読書です

氷山の9割は海面下

不要不急も大切である

る。平凡だが、まあ幸せ
じゃないかと、ナイトキ
ャップに舌鼓を打つ。出
社、縄のれんというルー
ティンがあると、人生そ
とか、自分の労働で、誰
人間は、不要不急の一見
無駄にも思える多くの行
動から、気付きを紡ぎ、
社会へ提供できる価値だ
と、自分の労働で、誰

のものを深く考え直した
りしません。しかし、テ
レワークで、家にずっと
いると、深く人生の来し
方を考え直します」。

「雄介君、大きく出た
じゃないか」「そして、
テレビで流れる、不要不
急の外出を避けて下さい
というテロップ。不要不
急とは何だと考えるので
す」。

「それは、俺も考える
かを幸せにできているだ
ろうか、納得できる思考
にたどり着けるまで考え
る。そして、アイスバー
グ、海面から上の氷山の
部分は、全体の1割だが、
海面下の9割の氷山が支
えている。不要不急は、海
面の下に隠れているが、
必要不可欠な氷山だとも
いえる」。

「亮太さん、そこなん
です、不要不急な行動は、

とても重要なので。でも
論理的にうまく説明する
ことができません。もし
て、不要不急でないこと
だけの生活は、無味乾燥
なロボットの世界です。
とても淋しい気分になっ
てしまいます」「いかに
も」。

◇ ◇ ◇

「雄介君、君が大学生
の時、ユングのペルソナ
とシャドーの話をした
に着けることが大切だと
言っている。人間は本来、
生臭い生き物なのだ。欲
を持ち、好き嫌いや怒り
という感情を持っている
る、その多くは、自分で
も認めたくないという。
しかし、社会生活をつま
く生きるために、仮面を
かぶり、敵に対しても味
方を演じて、社会的に、
さも正しいと思われる総
論を演じる」。

「サラリーマンが家庭
で妻や子供に総論をぶっ
ても、何の解決にもなら
ずに孤立するだけですも
のね。小料理屋の女将さ
んに総論を話しても相手
にされないです。小料理
屋は不要不急ですが、物
事を多面的に観ることを
学べます。成長するため
には重要なことですよ
ね」。

「生きていくうえで不
要不急だけれど、重要な
ことがたくさんある。読
書や語学の勉強、小料理
屋やバーなどで教養や対
人関係も学べる。仕事の
意義や、他人に対する優
しき、心配りを身に着け
ることもできる」。

◇ ◇ ◇

多くの経営者は、お客
様や社員の前では総論に
終始して、各論には触れ
ません。それが最良の対
処療法であるからです。
しかし、本音は「リスク
テイクとハードワーク」
です。事業は、過去の成
功事例の延長線上だけの
展開では決してうまくい
かないことを知っている
からです。ゆえに、事業
家は5年10年先にも事業
がサバイブするためのリ
スクテイクを真剣に考え
ています。

◇ ◇ ◇

「亮太さん、事を成す
ためにはシャドーのポー
ションで、悲しいけれど
DTA。自分の頭で考え
るしかありませんね」

「ペルソナは微笑みだけ
ど、ドント、トラスト
エニワン、DTA、そ
うかもしれないね」。

が、覚えているかい」

「はい。人間が社会生活
を営む時は、対外的にペ
ルソナ、仮面を被って役
者のように役割を演じて
いる。そして、その人間
の本質的な部分を影、シ
ャドーを心に宿して生き
ている。ユング心理学で
す」。

「ユングは社会生活か
ら離れ、うまく演じてい
るペルソナを外す術を身

(毎月掲載)